


地域がん診療連携拠点病院 長野赤十字病院のご案内

がんと向き合わなければ
ならなくなった時
私たちは、がん患者さんと
そのご家族を
チームでサポートします。



長野赤十字病院は地域がん診療連携拠点病院です。

 **長野赤十字病院**
〒380-8582 長野市若里五丁目22番1号
TEL.026-226-4131(代表) FAX.026-228-8439
<http://www.nagano-med.jrc.or.jp>

長野赤十字病院 

がんに関することならなんでもお気軽にご相談ください。

がん相談支援センター

受付時間 平日/9時~16時30分

※相談対応時間は17時まで

相談方法 TEL.026-217-0558(相談専用)

地域がん診療連携拠点病院
 **長野赤十字病院**



ごあいさつ

がんの診断を受けた患者のみなさん、また、ご家族のみなさんのご心労ははかり知れないものがあり、心中お察し申し上げます。近年、がんの手術・放射線治療・化学療法などの進歩は目覚しく、いくつかの治療法を組み合わせることにより治療効果を更に高めることができます。その結果、完全に治る方が増えてきています。とはいえ、がんに対する恐怖、治療法への不安、将来どうなるかなど沢山の心配があると思います。

長野赤十字病院は平成19年1月厚生労働省から地域がん診療連携拠点病院に指定されました。地域の医療関係のみなさんと連携をとりながら、がんでお悩みの方々が望まれる診療が受けられるように病院スタッフが一丸となってサポートします。治療内容への不安、療養上でお困りのこと、痛みがひどい場合、医療費の悩みなどありましたら“がん相談支援センター”へ気軽に声をかけてください。院内には同じ病気の仲間が集うサロン“陽だまり”があり、悩みを共有し励ましあっています。

がんと歩む日々がより穏やかで充実することを願っています。

長野赤十字病院
院長 和田 秀一



地域の医療機関との連携

長野赤十字病院は地域がん診療連携拠点病院として
質の高いがん医療を提供できるよう
地域の医療機関との連携協力体制の構築に努めています
特に地域がん診療病院であるJA長野厚生連 北信総合病院とは
グループ指定を受けており密に連携をとりながら診療にあたっています

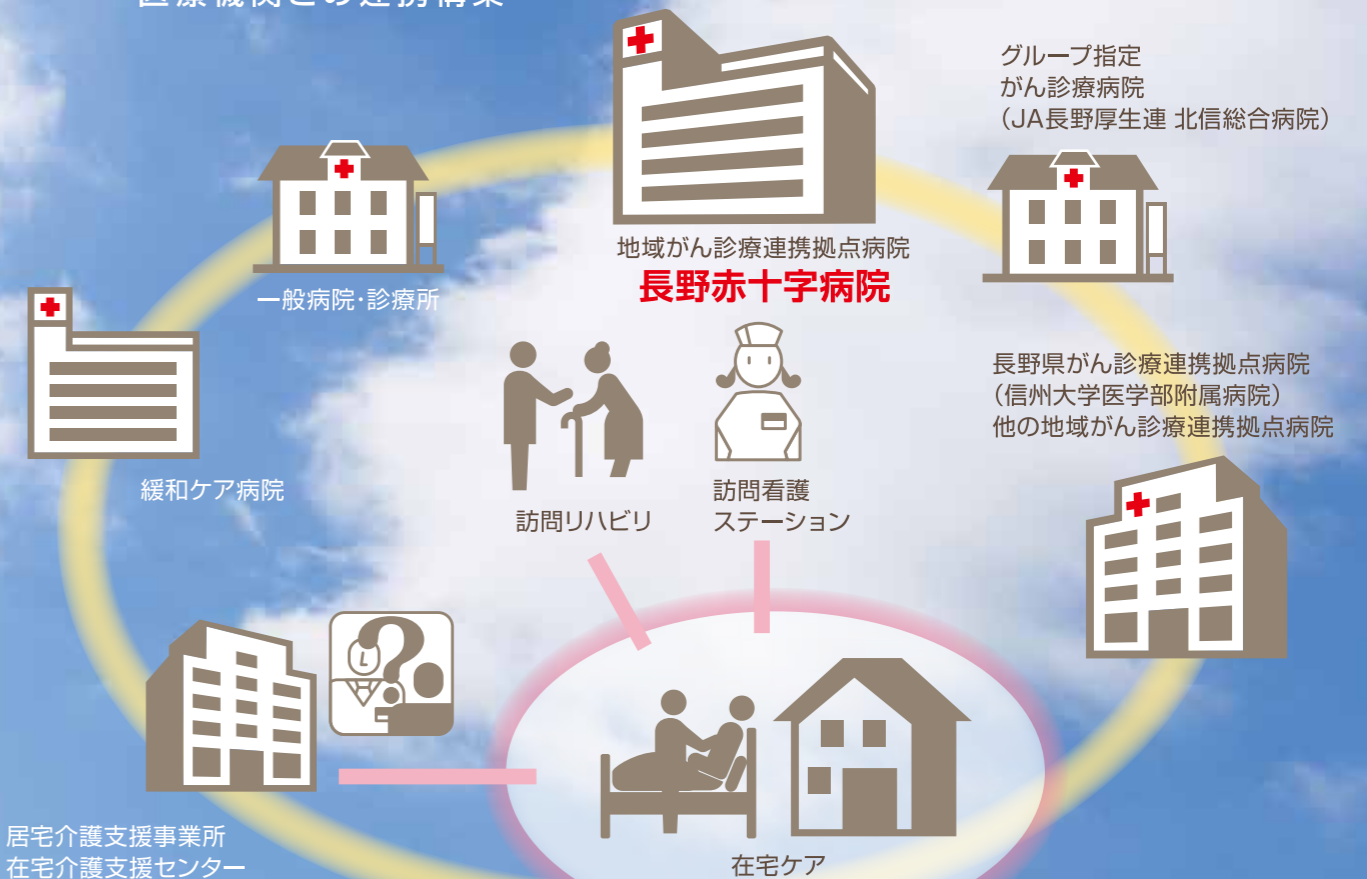
国は、全国どこでも質の高いがん医療を提供することができるよう、
地域がん診療連携拠点病院や地域がん診療病院等を指定しています。

拠点病院は、専門的・標準的ながん集学的治療（手術、抗がん剤、
放射線などの組み合わせ）の実施、緩和ケアの提供、病院と病院・病院
と診療所の連携、情報提供（講演会の開催など）、がん相談支援セ
ンターやセカンドオピニオン外来の設置、がん登録、専門スタッフの
配置などの役割を担っています。



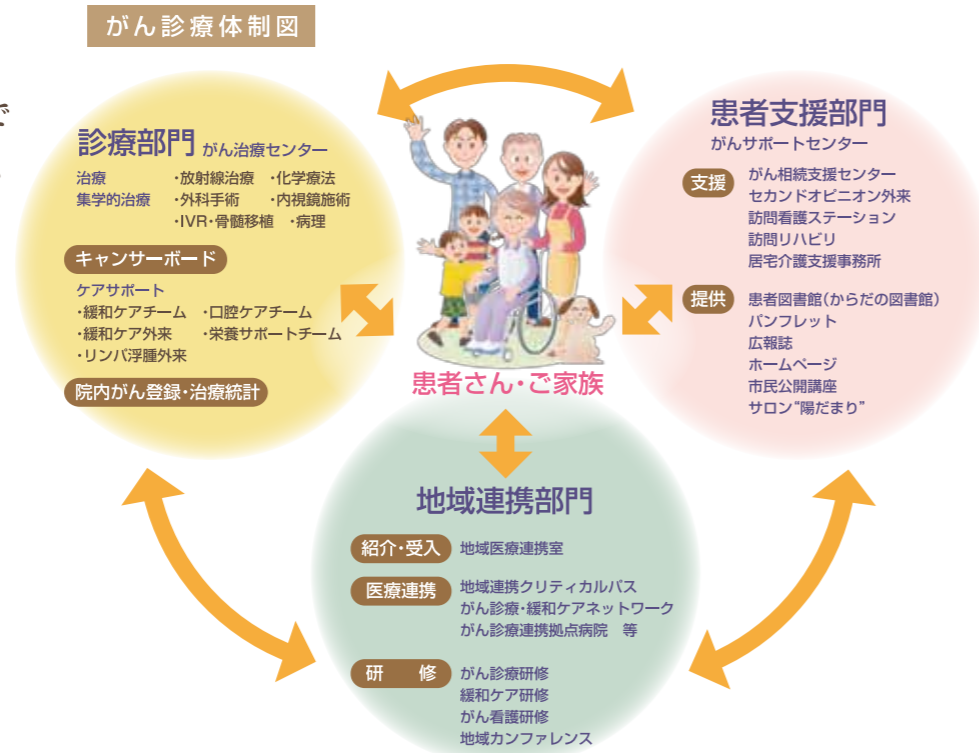
期間満了に伴い更新審査を受け、2019年4月1日付で再指定を受けました。

医療機関との連携構築



がん診療体制

3部門で構成するがん診療体制で一貫性のあるがん診療を提供し、がん患者さんとそのご家族をがんと診断された時からチームで支援します。



がんの診断・治療

日本に多い代表的ながんに対して、以下のように診断、治療を行っています。

胃がん

胃がんかどうか調べるには上部消化管内視鏡検査(胃カメラ)を行います。必要に応じて生検(病変の一部をとること)を行い、生検組織を顕微鏡で調べる病理検査で胃がんであるか診断されます。血液検査(貧血、腫瘍マーカーなど)も必要です。胃の造影検査(バリウム検査)、胸・腹部レントゲン、腹部超音波、腹部CT、PETなどの検査を行い、病期診断(がんの進行度評価)を行います。早期胃がんには内視鏡的切除(EMR、ESD)を積極的に行っていきます。腹腔鏡を用いた手術や開腹手術、症例に応じて化学療法(抗がん剤治療)も積極的に行っていきます。

トゲン、腹部超音波、腹部CT、PETなどの検査を行い、病期診断(がんの進行度評価)を行います。また、国立がん研究センター東病院に協力してLC-SCRUM JAPANプロジェクトに参加しています。保険診療では不可能な遺伝子変異検索や治験への積極的な参加により、いわゆるプレジジョン・メディシンによる個別化医療を実践しています。

肺がん

肺がんかどうか調べるには、胸部CTを行い、その後気管支鏡検査、CTガイド下生検、局所麻酔下胸腔鏡検査などにより病理検査を行い診断します。さらにPET、頭部MRIによって病期診断(がんの進行度評価)を行い、内科治療(分子標的薬、化学療法、放射線治療、緩和医療)や外科治療(胸腔鏡下手術、開胸手術)を適切に選択します。内科治療を行う場合にはがん

細胞の遺伝子変異検索が非常に重要ですが、当院は院内で検査が可能であり、治療までの時間が大きく短縮されています。また、国立がん研究センター東病院に協力してLC-SCRUM JAPANプロジェクトに参加しています。保険診療では不可能な遺伝子変異検索や治験への積極的な参加により、いわゆるプレジジョン・メディシンによる個別化医療を実践しています。

大腸がん

大腸がんがあるか調べるには大腸内視鏡検査(大腸カメラ)を行い、必要に応じて生検を行います。注腸造影、腫瘍マーカー、胸・腹部レントゲン、腹部超音波、CT、MRI、PETなどの検査も行います。治療方針は病期診断(がんの進行度評価)に基づいて決まります。内視鏡的切除(EMR、

ESD)、腹腔鏡下手術、開腹手術が選択されます。放射線治療や化学療法を行うこともあります。

肝がん

肝がんかどうか詳しく調べるには、超音波、CT、MRIなどの画像検査と腫瘍マーカーを組み合わせ行います。必要があれば、血管や病巣の状態を調べる血管造影検査や生検を行うことがあります。治療は肝切除術(外科手術)、経皮的局所療法(ラジオ波焼灼術)、肝動脈塞栓療法、放射線

治療法、化学療法(抗癌剤や分子標的薬)などがあります。病変の数や大きさなどとあわせて肝予備能や他の臓器の状態などを含め方針を決め治療にあたっています。長期的な管理が必要なため地域の先生方と連携し治療を進めています。

乳がん

乳がんかどうか詳しく調べるには、視触診、マンモグラフィ、超音波、CT、MRI、PET、細胞診、針生検、マンモトーム生検などの検査を組み合わせ行います。乳がんは比較的小さい時期からリンパや血液の流れに乗って肺、肝臓、骨などに小さな転移巣を作ると考えられています。その

ため、病期診断(がんの進行度評価)に応じて外科治療、放射線治療、化学療法を組み合わせ治療を行います。美容にも配慮した手術を形成外科と協力して行っています。



がん治療センター

化学療法、放射線治療、手術等、総合力で裏打ちされた高度ながん集学治療を提供できる体制を整備しています。

化学療法

外来化学療法室では、多くの患者さんが自宅で普段の生活を続けながら、外来での化学療法を受けていらっしゃいます。

従来は入院治療が中心だった化学療法ですが、新しい治療薬や副作用に対する対処法の進歩により、個々の患者さんの生活ペースに合わせた外来治療が可能になってきました。

当院の外来化学療法室は平成18年4月にベッド数8床で開設しましたが、現在はリクライニングチェア8台、ベッド12床に拡充しています。(R元年5月現在)

安全で質の高い化学療法を提供するため、各領域の専門医、がん専門薬剤師、がん化学療法看護認定看護師らが参加する委員会を毎月開催しています。当院で行われているすべての化学療法は委員会でのエビデンスレベル、認定レベルを評価して認証されたもので、抗がん剤処方や監査のシステムを整備して薬剤投与量、スケジュールを正確に管理しています。

安心して快適に治療を受けていただけますよう、専従の医師、薬剤師、看護師を配置して化学療法の更なる充実を図っています。



外来化学療法室からは春にさくらがとてもきれいに見られます。



手術

最新の治療環境のもと、確かな医療技術を提供しています。

改修工事を終えた全11室の中央手術室には、最新の手術装置が整備されています。平成30年には年間5739件(うち全身麻酔3023件)の手術が行われました。現在、麻酔科医は9人(うち5人は麻酔科専門医)が麻酔管理を担当しています。緊急手術にも対応しています。

平成30年のがんの手術件数(鏡視下手術割合)は、肺がん85件(95.3%)、大腸がん119件(58.0%)、肝がん19件(5.3%)、膵がん胆管がん30件、乳がん141件、甲状腺がん40件、子宮がん19件、卵巣がん9件、前立腺がん86件(100%)、膀胱がん(全摘除術)6件(100%)、腎がん及び腎盂尿管がん51件(100%)などです。

当院泌尿器科では、平成31年に更新された最新の手術支援ロボットダヴィンチを使用して前立腺全摘術の他、腎部分切除術、膀胱全摘術も行い、良好な治療成績を取っています。



ダ・ヴィンチ

病理診断

採取された臓器や組織から、がんなどの病気を診断します。また、遺伝子検査で早期治療に貢献しています。

内視鏡・気管支鏡や手術により採取された組織から標本を作製し、顕微鏡で観察して、良性・悪性の鑑別、診断名、病変の広がりなど形態的な診断を行います。

また、遺伝子検査を院内で実施していますが、これは、患者さんごとの遺伝子や蛋白をより詳細に調べて、高い効果が期待出来る薬を選択するためのものです。県内病院で院内実施している施設は少なく、外注している施設に比べ、分子標的薬投与までの期間が大幅に短縮されています。



放射線治療

放射線治療とは、放射線を照射することでがんを治したり症状を緩和したりする治療です。がんに対して集中して照射するため副作用は少なく、通院でがんの治療ができます。

当院では、からだの外からエックス線や電子線を照射する外照射と、放射性薬品を投与してからだの中から照射するラジオアイソトープ治療（内用療法）が施行可能です。

外照射は平成28年からライナック治療装置2台体制となり、多くの方に画像誘導放射線治療（IGRT）を併用した高精度放射線治療が提供できるようになりました。がんの広がりに合わせて複雑な形で適切な量を照射する強度変調放射線治療（IMRT）や、小さながん病巣に集中して高線量を照射する定位放射線治療（脳定位照射、体幹部定位放射線治療）は、前立腺癌や頭頸部癌、脳腫瘍をはじめ、多くのがんの治療に効果を発揮します。

ラジオアイソトープ治療では、甲状腺癌に対するヨード内用療法、悪性リンパ腫に対するゼバリンによるアイソトープ標識抗体療法、前立腺癌骨転移に対するラジウム内用療法を行っています。

安全に質の高いがん治療を提供するため、放射線治療専門医3名、放射線治療専門放射線技師3名、放射線治療品質管理士3名、医学物理士2名を配置し、看護師、医療事務を含めたチーム全体で治療にあたります。



第二ライナック室 ノバリスTx



第一ライナック室 シナジー（アジリティーヘッド）

放射線診断

診断体制の充実強化を図るため、最新鋭の医療機器を導入。

2台のCT（コンピューター断層撮影）、2台のMRI（磁気共鳴画像）、1台のガンマカメラによって全領域の画像診断を行っています。ガンマカメラでは、骨シンチ、ガリウムシンチなどの各種シンチグラム、脳や心筋などのSPECT/CT検査を行っています。高い精度や3次元での画像構成と放射線科専門医による読影で、信頼性の高い画像診断を行っています。平成25年2月に新設されたPET/CT装置により、腫瘍の位置や大きさなどをさらに詳しく知ることが可能になりました。

また、当院では地域の医療機関からの検査依頼を積極的に受け入れており、患者さんの要望に応えられるよう努力しています。



CT



PET/CT

他の機能

カンサーボード

カンサーボードとは、がん患者さんの症状・状態及び治療方針等を共有・検討・確認等するためのカンファレンス（検討会）のことをいいます。当院では、異なる専門性を持つ専門医が定期的に一堂に会して、一人ひとりの患者さんに合った最善の治療方針を検討しています。



骨髄移植センター

白血病などの血液がんをはじめとした難治性血液疾患に対し、造血幹細胞移植医療を提供するため、骨髄移植センターが平成10年に開設されました。平成13年より骨髄移植推進財団の認定移植施設、臍帯血移植ネットワークの認定施設となり、骨髄バンクおよび臍帯血バンクからの移植も行っています。地域で必要とされる最新の血液疾患医療を提供できる体制をとっており、全国的にも高い評価を受ける治療センターとなっています。



リンパ浮腫チーム・リンパ浮腫外来

リンパ浮腫とは、がんの手術でわきの下や足の付け根のリンパ節を切除したり、放射線治療によりリンパ管が細くなったり、途切れたりすることでリンパの流れが悪くなり、リンパ液が皮下にたまる状態です。治療ですでに脚や腕にリンパ浮腫がある方、まだ腫れていないがだるいなど徴候がある方を対象にリンパ浮腫の予防・改善に努めています。医師、看護師、理学療法士が連携をとりチームでサポートします。



口腔ケアチーム

がんの治療は、その副作用として正常な細胞にも悪影響を与えます。化学療法や口腔周囲に放射線治療を行うと、口腔粘膜炎、虫歯・歯周病（今あるものが悪化したり新たに発症）、口腔内乾燥、味覚障害（食べ物の味が変わる）などの合併症が起こりやすくなります。口腔内の合併症は、治療の継続を困難にしたり、食事を摂りにくくし、体力低下や感染の危険を引き起こします。口腔ケアチームは、歯科医師、看護師、歯科衛生士、言語聴覚士で構成され、がんおよびがんの治療に伴う様々な合併症に対し予防的、継続的、指導的にかかわり生活の質を高めるよう支援します。



栄養サポートチーム

がん患者さんは、治療やがんそのものの病気のために、栄養の吸収力低下、食欲低下や食事摂取困難などの障害をきたすこともあります。栄養不良状態が続くと、免疫力の低下や筋力低下などによる感染症が起こりやすくなります。栄養サポートチームは、医師、歯科医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師、歯科衛生士、言語聴覚士、理学療法士、作業療法士など院内のすべての職種で構成され、栄養管理を必要とする患者さんをチームでサポートします。



※写真はイメージです

研修体制

がん診療研修

がん医療に携わる地域の医療従事者を対象とした、診断、治療に関する研修を定期的で開催しています。

緩和ケア研修

すべてのがん診療に携わる医師が研修等により、緩和ケアについての基本的な知識を習得することを目的とした緩和ケア研修会を、平成20年から毎年実施しています。





緩和ケアセンター

がん情報の提供、さまざまな相談への対応、痛みや気持ちのつらさの緩和などにより、がん患者さんご家族を支えます。

がん相談支援センター

がん相談支援センターでは、患者さんやご家族の療養上の悩みなど、がんに関する様々な相談に応じています。相談は無料、当院を受診していない方もご相談いただけます。

がんに関する一般的な医療情報や当院のがん診療に関する情報の提供、セカンドオピニオンに関する相談にも応じています。お気軽にご利用ください。

《ご相談・お問い合わせ》 ●平日/9時～16時30分

●TEL 026-217-0558(相談専用) ●TEL 026-226-4131(代表)



緩和ケアチーム・緩和ケア外来・緩和ケア看護外来

がん(悪性腫瘍)による痛みやその他つらい症状を緩和し、日常生活、社会生活の質を高めるよう、入院されている間、継続的に支援を行う専門家チームです。医師、看護師、薬剤師、臨床心理士、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、医療ソーシャルワーカーにより構成されています。

がんでつらいと感じていらっしゃる方は、各病棟のスタッフに声をかけていただくか、がんサポートセンターにお問い合わせください。

緩和ケア外来は、紹介予約制となります。



■緩和ケア外来・緩和ケア看護外来

	診療日・受付時間
緩和ケア外来	平日(当院休診日を除く) 月～金曜日/9時30分～11時30分
緩和ケア看護外来	平日(当院休診日を除く) 月～金曜日/9時～16時

セカンドオピニオン

セカンドオピニオンとは、診断や治療方針について、主治医以外の第三者の医師が提示する医療上の意見のことです。

●セカンドオピニオン外来

当院以外の医療機関を受診されている患者さんを対象に、患者さんの主治医からの情報などをもとに、当院の各分野の専門医が担当します。診療行為(検査・治療等)は行いません。

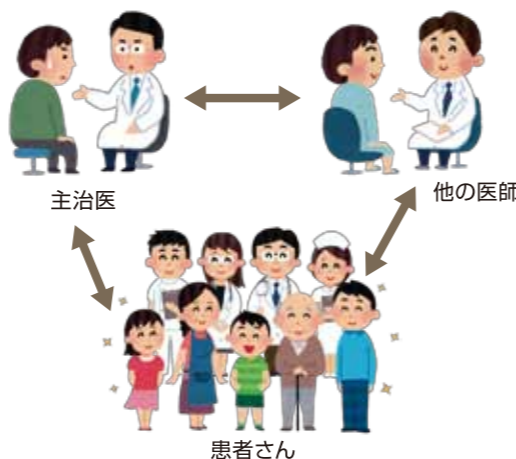
■セカンドオピニオンは完全予約制です。

■【時間】外来での相談時間(事前資料確認及び報告書作成時間を含む)は、60分を原則とさせていただきます。

■【料金】費用は保険診療外(自由診療)となり、60分10,000円(税別)、以後30分を限度とし5,000円(税別)を加算します。

●他の医療機関でのセカンドオピニオンを希望される方へ

患者の皆様がこれから受ける診療、または現在受けている治療について、担当医とは別の第三者的立場にある医師から意見を聞きたい場合には、受診されている診療科の主治医または看護師にお申し出ください。他の医療機関にセカンドオピニオンを求めることにより患者さんが不利益を被ることはありません。また相談は、がん相談支援センターでもお受けしておりますので、遠慮なくご相談ください。



《予約・お問い合わせ》
がん相談支援センター
●平日/9時～16時30分
●TEL.026-226-4131(代表)

《院外からの予約・お問い合わせ》

●平日/8時30分～18時30分
土/8時30分～13時

長野赤十字病院 地域医療連携室
TEL.026-226-3687(直通)

※痛みや不安でお困りの方は左記の限りではありませんので、お気軽にご相談ください。

患者会との連携

当院の患者会は自主的に運営されており、会の開催時は関連診療科の看護師が参加し、病院との連携をとっています。その他、希望に応じてがん相談支援センターが院内外への橋渡しを行っています。

患者会は、福寿草の会(乳がん・婦人科がん)、しらかば会(人工肛門)、信鈴会(喉頭摘出)、たんぼの会(血液疾患)があります。

患者会に関するお問い合わせは、がん相談支援センターまでお願い致します。

《お問い合わせ》 ●平日/9時～16時30分

●TEL.026-226-4131(代表)

市民公開講座

がんに関する治療やケア、心理社会的問題など、さまざまな問題に対する解決の糸口になることを期待し、地域の皆様を対象に市民公開講座を開催しております。

専門医や専門家による講演など、興味を持って聞いただけの内容となっております。公開講座のスケジュールに関しましてはホームページをご覧ください。



院内がん登録

院内がん登録は、病院で診断、治療されたすべての患者さんのがんについての情報を、病院全体で集め分析することであり、自院におけるがん診療の実態を把握し、がん医療の質の向上とがん患者さんやご家族の支援のために役立てます。

また、国や都道府県等に情報を提供することにより、がん対策の企画立案やがん医療の分析および評価を行うことに活用されます。

当院の院内がん登録件数や情報利用、提供等に関しましてはホームページをご覧ください。



在宅支援

訪問看護ステーション

当ステーションでは、かかりつけの医師の指示を受け、病気や障害を持って家庭で療養されている方と介護されている方が、住み慣れたご自宅で安心して療養生活を送れるよう、訪問看護師がお宅までお伺いし、「看護」をご提供いたします。かかりつけの医師や、ケアマネージャーまたは、直接、訪問看護ステーションにご相談の上、お申込みください。

訪問リハビリテーション事業所

治療等に伴う体調不良や活動性低下により身体に様々な問題が生じます。訪問リハビリでは自宅に訪問し利用者様の身体の状態に合わせてリハビリを行い、必要であれば環境整備、自主トレーニングの指導も行っていきます。

介護保険をお持ちの方は担当ケアマネージャーさんへ、そうでない方はかかりつけの医師にリハビリの希望をお伝えください。

居宅介護支援事業所

看護師と介護福祉士の2人のケアマネージャーが、要介護認定を受けられた方(要介護1～5)の居宅介護支援計画(ケアプラン)作成を行っています。利用者様とご家族にとってより快適な在宅生活を送れるよう、利用者様の立場に立ったケアプラン作りを目指しています。



